

---

=== 日程第3 一般質問 ===

議長（村松 積） 日程第3、一般質問に入ります。

今回は6番、宮嶋清伸君、1番、小池昌人君、3番、金田憲治君、2番、串原寛治君、4番、宮嶋怡正君、以上5名から通告されております。

---

**宮 嶋 清 伸**

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、質問を許します。登壇願います。

6番（宮嶋 清伸） 6番、宮嶋清伸です。

まずは8月1日夜、発生した断水に対し、役場職員の不眠不休による懸命な給水活動に対し、心から感謝申し上げます。

断水という緊急事態に対し、早急に原因個所の捜査を行うとともに、敏速な給水活動が住民の不安をおおることなく、下條村の危機管理体制の充実さを実感することができました。

さて、今回私は、5期目をスタートした伊藤村長に就任以来積極的に取り組んできた子育て支援策の成果で、増加傾向の子供たちの教育の充実策と、長年続いたオフトーク放送のおはよう番組について村長のお考えをお聞きします。

まず、教育の充実施策について。

学校図書館司書の導入についてお聞きします。

近隣町村の学校図書館司書の設置は、小規模なところを除いて大半は臨時、または嘱託職員を配置しており、中には小中兼務しているところもあり、厳しい財政の中、各自治体で対応しているようです。

下條を見ると、担任を持つ司書教諭は兼務しており、週1時間を蔵書整理に当てており、蔵書購入や本の受入作業等は時間外に行っており、充実した環境とはいえません。また、図書館という館には、主が不在であり、その場所に子供が集えない環境であります。

私も学校の行事の折り、休憩室として年に3回ほど入りますが、何か物足りなさを感じております。

そこで子育て支援に力を入れ、児童数も増加している下條村として、学校図書館司書の配置を検討したらと思いますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

次に、村立図書館の充実についてお聞きします。

下條村は、住民1人あたりの貸し出し数が県下第2位という位置につけております。その背景には、立派な村立図書館に充実した蔵書、何より図書館職員の本に対する愛情と、住民に本を読んでもらおうとする情熱があるからだとは確信しております。

昨年、私は、全国第1位の貸し出し数の富山県の舟橋村図書館に視察に行きました。そして先月、図書館協議会のメンバーと県下1位の富士見町と3位の原村、下諏訪の図書館を視察してまいりました。

どこの図書館も共通していえることは、下條と同様に職員が図書館の運営に誇りを持ち、生き生きとして楽しんで仕事をしておりました。しかし、図書館の評価として、貸し出し数を上げるために雑誌やDVD、ビデオ、漫画を充実させ、開館時間を延長し、休刊日も少なくすれば良いのですが、私は違うような気がしました。

下條村では、毎週小学生の図書館ボランティアによるお話会をはじめ、毎月何らかの行事を企画しております。また、先日図書館に行ったら、視察先で行われていたお金をかけなくてもできることを既に取り入れており、感心させられました。

そこで村長に、今後下條村図書館のあり方として、漫画やDVDなどを増やし、時間延長や休館日を少なくし、利用率を上げていかれるのか、それとも数値を重視するのではなく、本質的に充実したものを職員や住民のアイディアにより、今までのように運営されていかれるかお聞きいたします。

最後になりますが、オフトーク放送のおはよう番組について、村長のお考えをお聞きします。

現在着工中の音声告知システム導入後廃止予定の、長年続いたオフトークのおはよう番組は、朝と夜の2回放送され、住民の中には楽しみにしている人も多いと思います。しかし、私自身音声告知システムの説明会で、「おはよう番組は廃止になるんだな」と人ごとのように思っていたのですが、期限が近づくにつれ、本当になくして良いのだろうか、不安になりました。

現実問題として、現在の機器では老朽化が進み使用できませんし、音声告知の利用料300円では運営できません、また、おはよう番組継続希望者も全村から見ると、メゾンなどの住民の若者はあまり興味がないと思いますが、お年寄りの中には日課になっている人

もいると思います。

現実にスタートしないと分かりませんが、音声告知は機械による声となり、人間味に欠けるようなさみしさを感じます。

テレビの自主放送を作成するには、スタッフが必要になり、委託すればそれなりの料金が発生すると思われまます。ここで結論から言いますと、私は音声告知の利用料300円は維持したままおはよう番組を継続し、そのスタッフがテレビの自主番組の録画、編集を行い、音声告知も生の声を流したらと私は考えますが、村長のお考えをお聞かせ願います。

以上で終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 宮嶋議員の答弁をいたします。

まず最初に今回発生した断水事故につきまして、評価していただいてありがとうございました。

災難はどこにいつ発生するか分からないという中で、職員はもちろんでございますけれども、地元の皆さん、それから業者の皆さんにも大変なご協力をいただいて、最小限の不便さで対応でき、原因もしっかり分かったわけでございまして、これからもそれを元として、より安心して使える村営水道にしていくように頑張っております。

学校図書館の司書導入について提案がございました。

回答といたしまして、子供たちはテレビゲーム・漫画など昔に比べ興味を引くものがあり、読書離れが進んでおります。これは子供たちだけでなしに若者も確かにそうでございます。そこで学校では、短い時間ではあるが、朝読書を行っております。活字離れをしないように、また読解力をつけるように努めておるところでございます。

学校図書館では、子供たちが先生と一緒に本を選ぶことができ、その本を利用して学習時間を持つことができます。

今分業化の社会でございまして、お医者さんもそうでございますけれども、やたら分業化しちゃって「私は消化器系だよ」「私は循環器系だよ」「私は何々系で整形ですよ」とかいうふうに分業化してしまっておるわけでございますけれども、特に小児教育の中では学校の図書は司書に任せろという、こういう発想もいかなものかなと。先生と子供たちが一緒になって、本に興味を持ちながらやっていくというのを学校の大事なことかなと、教

育の大事な事かなと思っております。

社会の情報化が進む中、多くの情報の中から自ら必要な情報を収集・選択し活用する能力をはぐくむために、学校図書館の本の整理や紹介等も行い、子供たちが使いやすく、親しみやすい図書館を目指していることはそのとおりでございます。

このほかに2カ月に一度、小中学校16クラスに、村営の図書館からそのクラスに50冊ずつ司書がその文書を選択して学校に持って行って、紹介したりまた貸し出しをしておるところでございます。

それから議員が提案されました、この前の信州大学との信州大学教育学部との子供の未来思考力を高めるソフトなんかも今充実させておるところでございます。

どちらにいたしましても、今のこの学校の図書館にまたさらに司書を置くということがいいか悪いか、これらもまたしっかりほかの町村等の例も聞きながら頑張っていくということと同時に、やはり小学生時分というのは先生は本を選ぶことから子供に教えてやらなければ、「本の選択は司書ですよ」というこの突き放し方というか、分別しかたというのはちょっと問題があるのかなと、私は思っております。

今やっておるのは、読み聞かせということで、春と秋には読書週間、読書旬間があるわけでございますけれども、各学年に45分ずつ読み聞かせをやっておるそうでございます。

総合学習の資料準備ということで、特に修学旅行、この前もグアムに行きましたけれども、その関係については徹底して司書が選んでそのクラス、その学年に図書を持ち込んで説明しております。

それから中学生の職場研修なんかにも、図書館でも積極的に取り入れております。

図書館ボランティアの指導として、毎週土曜日9時45分から11時45分まで、現在小学生12名が幼児に対する読み聞かせ、図書館の仕事と何かを手伝っておるわけございまして、なかなかこれが好評のようございまして、こういうこともこれからもさらに評価しながら強化してまいりたいと思っております。

それから2番目にありました図書館の充実でございます。

お話のように、私も富士見に2回ほど行きました。原村へは1回行きました。

富士見は県下1で、私は、富士見が全国1だと思ったら富山県に全国1があるんな。このごろだ。富士見がずっと全国1位を貫いておりましたけれども、富士見の図書館は非常

にすばらしいわけであると同時に、あそこは避暑客が非常に多いわけでございます。茅野から始まって、そうした皆さんが、あの富士見の広い図書館で、夏場本当に1日をしっかりと涼しい環境の中で楽しみながらやっておるところを実際目の当たりにしてまいりました。

下條村の図書館も、職員が2名当然常駐しております。これは昔では考えられななだこと。それから蔵書も6万冊になりました。私が始めた時は蔵書が少なく、そして刈谷市に行って要らなくなった本を少しずつでも並べておくかというような時代もあったわけでございますけれども、6万冊。4,200人の村で蔵書が6万冊あるということは、これは大変なことであろうと思います。

それからさらに19年度までは、毎年350万円の書籍を買ってございましたけれども、19年より400万円ということに増額して、蔵書の充実、リクエスト本に対する対応、図書館の充実を図ってまいりました。

それでいつまでも400万円を貫いていいかというこの問題もあります。これもまた今データがすぐ出るわけでございますので、これらも根本的に時には考えていってみたいなと思っております。

また、月に1回くらいの感覚で、図書館にあまり足を運ぶことのない人たちにも来てもらうために、指人形小劇場や陶芸教室、図書館のお楽しみ等を積極的に行っておるところでございます。

資料もここにありますが、例えば5月にはけん玉教室、6月には歌とお話の会、7月13日には夏のお楽しみ会、8月7日には指人形笑劇場、9月13日には親子陶芸教室、9月12日には初めての押し花教室、11月23日には文化の祭典「にこにこ人形劇場」、12月4日にはカッセイカマンのクリスマスショー。1月18日は将棋祭り、3月1日には子供歌舞伎劇場等々をやっておるわけございまして、まあまあ積極的にやっておるのかなということでございます。

これは当然またマンネリ化するんでなくて、見直すということが前提でございます。

それで特に小学生の時分、メニューを次から次に与えて、そして消化不良を起こさないように、またその加減も難しいわけでございますので、そんなことにも心がけながら真剣に考えてみたいと思っております。

それから音声告知システムの廃止ということでございますけれども、今回の音声告知シ

システムの事業導入するに際し、各集落で徹底的に集会を行いました。「おはよう番組」については、継続しない旨を説明しております。音声告知を全戸に整備するためには、「利用料金設定が今までの1,100円では高すぎる」という大勢のご指摘もあり、料金を800円下げて300円とし、内容を緊急の情報伝達と通常のお知らせのみとして計画を進めてまいったところでございます。

この料金は、今後運営するためには必要最低限の料金設定としておるために「おはよう番組」も存続させたいということになると、料金の再度見直しや予算の再検討も必要となります。

また、おはよう番組に代わるものとして、ケーブルテレビでは、下條村専用チャンネルで、行事等の文字放送、議会中継や運動会などの各種行事等の自主放送番組を充実させていくように計画しております。

このようなことから、「おはよう番組」については、継続しないということを当面進めますが、村民の間に「存続したい」という意見が多く出るようであれば、システムとしてはいつでもセットできるようになっておるわけでございますので、これはまた幅広いご意見をお聞きして、皆様にお諮らいし方向を定めていきたいと思っております。

その上に掛かる経費等については、このシステム導入に100万円程度、現在のオフワーク運営に掛かる経費これ500万円程度必要ということでございます。

以上のようにございますけれども、とにかく教育というのは村づくりの基本に置いております。基本において教育環境の充実には積極的に努めますけれども、その中でも節度のある、ただ与えればいいんだ、環境を整えればいいんじゃないしに、本当に先生たちと子供さんたちが一緒になって、意欲的に取り組むという環境、これをもう少しこれから整える必要はあろうかと思っております。

先生方も一生懸命やっておっていただきますけれども、そのことに感謝申し上げるとともに、もう少し行政も、今も行政と教育の中立性ということで、行政と学校というのは一定の距離を置いておりますけれども、下條村は距離は置いておりません。いろいろ先生方とも相談しながら、これからも前向きにやっていくことが下條村づくりの一番基本になることということで、大きな使命と考えておるわけでございますので、いろいろまた議員諸兄のご意見もお聞きしながら取り組んでまいるということでございます。

結論めいたものはなかなか申さなかったわけでございますけれども、そういうことでご  
理解いただきたいと思います。

議長（村松 積） 6番、宮嶋清伸君、再質問はいいですか。